



—東地中海地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：エルサレム情勢

(10月5日付ハアレッツ紙)

10月5日付ハアレッツ紙は、最近エルサレムの「神殿の丘」で発生したパレスチナ系住民とイスラエル警察との衝突事件に関するアヴィ・イサハロフ記者による解説記事を掲載した。概要は以下のとおり。

1. 駐イスラエルの外交団関係者は、10月4日及び9月27日のヨム・キプール（ユダヤ大贖罪日）前日に発生したパレスチナ系住民とイスラエル警察との衝突について、イスラエル政府が現地情勢を緊迫化させるために、「神殿の丘」に対する新たな政策を実施しているのかと疑問を抱いているが、これにはパレスチナのメディア及びPA幹部が、「イスラエルがユダヤ人極右入植者に対し、「神殿の丘」内のアル・アクサー・モスクでの祈禱を許可しようとしている」と主張していることが少なからず影響している。  
アブルゲイト・エジプト外相までが、イスラエル政府を非難し、イスラエル政府が講じる「神殿の丘」に対する危険な政策は騒乱の勃発をもたらす危険性があると非難した。しかし、現実には、より複雑である。
2. 「神殿の丘」のステータスは2003年より変更されていない。即ち、同地域への観光客及びユダヤ人の入域は、通常、午前7時30分から午前10時、及び午後12時30分から午後1時30分までの時間帯とされており、これらの訪問は、ワクフ（同敷地を管理するイスラム共同体）と事前調整の必要はない。
3. シェイク・アル・ハティーブ・ワクフ代表は、9月27日夕刻から始まるヨム・キプール直前にユダヤ人の数グループが「神殿の丘」で祈禱する予定である旨を公表した案内を配布したと述べた。  
これに加え、エルサレムのムフティ（イスラム法官）であったシェイク・サブりは、10月4日早朝の礼拝に出席したイスラム教徒に対し、アル・アクサー・モスクに集合し、ユダヤ人の侵入から同モスクを守るよう呼びかけた。又、カデルPAエルサレム問題首相顧問（元エルサレム問題担当長官、ファタハ）及びイスラム運動指導者も同様の呼びかけを行った。
4. 9月27日午前7時半、旧市街の「嘆きの壁」から「神殿の丘」に通じるムグラビーム門が開かれ、大部分はクリチャンより構成されたフランス人観光客のグループが「神殿の丘」に入域したところ、極右ユダヤ人の侵入を待ち構えていたイスラム教徒数百名が同観光客グループ、及び同グループの迅速な退避を促していた警官に投石した。その結果、パレスチナ人と警官が概ね半々の30名が負傷した。  
10月4日の事件では、イスラエル警察はイスラム教徒数十名が極右ユダヤ人の「神殿の丘」への侵入を待ち構えているとの事前情報に接し、同地域への非イスラム教徒の立ち入りを禁止するとの判断を早々に行った。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799